

## 徳田の歴史-9(無形)

### “いい継ぎ” 制

1/2

#### ● “いい継ぎ”とは…

回覧板が一般に普及していなかった昭和の初め頃(～20年代頃)組内(自治会)の連絡網は各家庭が順番に口伝で連絡していく方法を取っていた。この様な連絡方法を“いい継ぎ”(ゆい継ぎ)と呼んでいた。

当時は一般には事務用品(筆記用具等)や事務機器(コピー機等)が充分でなくこんな方法が主流であった様です。

例:いつ、何時に、どこで、どのような事があるので、何々を持参して集まって下さい、…

“これはいい継ぎですので次の人に必ず伝えて下さい”等…と口伝で連絡するのです。

#### ● 良いところ:

- ①お互いに顔を見ながら連絡できる
- ②隣同士の挨拶等親近感が生まれる…等

#### ● 悪いところ:

- ①留守で相手がいないうちがある
- ②いい継ぎがあったことを忘れる
- ③伝える内容を間違える(徐々に内容が違ってくる)
- ④一巡するのに時間がかかる…等

#### ● 当時の連絡内容は農業に関することや供出、祭り事、配給制度等に関する事が主な連絡内容だった様です。

##### 〈参考〉

※供出:政府の要請に応じて特定の物資や農産物を一定の価格で政府に売り渡すこと。(この地区では特に米、麦、芋等)

※配給制度:数量が充分でない物資を政府が民間に配分方法等を規制し割り当てる制度。(米、衣類、砂糖、塩、燃料等)

現在ではパソコンでの作成資料やコピーされた書類等をバインダーに挟んで

バッグに入れて各家庭に組長より、回覧板として回覧しています。又場合により電話、メール等も利用され当時と比較すると大変正確に、早く、便利になりました。

● “いい継ぎ”から回覧板へ



現在の回覧板とバッグ

※以上は地元年配者との話より作成しました。

2016/12月 H.A